# 学習指導案「もしも自分だったら」（食物アレルギー編）

| | |
|---|---|
| 対象学年 | 小学校５学年・６学年 |
| 活用可能な単元 | 給食指導、家庭科「Ｂ衣食住の生活（調理実習）」「Ｃ消費生活・環境」、<br>保健体育（保健領域）「病気の予防」、道徳「相互理解、寛容」 |
| ねらい | （1）「食物アレルギー」の知識を得る。<br>（2）「食物アレルギー」をもつ人の気持ちを想像してみる。<br>（3）自分の行動を振り返り、今後の行動目標を立てる。 |
| 準備 | PC、モニター（またはプロジェクター/スクリーン）、授業用タブレット |
| テーマの背景 | 小学生の食物アレルギーの有病率は6.1%*1であり、30人学級であれば食物アレルギーをもつ児童がクラスに2人程度いることになります。食物アレルギーをもつ児童が安全に安心して学校生活を送るうえで、ほかの児童の食物アレルギーに対する理解は不可欠です。とくに調理実習においては、事前に正しい知識とともに準備や後片付けでの注意点や配慮について授業で取り上げることに意義があると考えます。<br>*1公益財団法人　日本学校保健会「令和4年度アレルギー疾患に関する調査報告書」（2023年3月発行） |

| | 学習活動 | 教材 |
|---|---|---|
| 導入<br>5分 | 調理実習の前に、食物アレルギーについて知っていることを確認する。<br>【発問】調理実習で注意することはなにか。児童から「食物アレルギー」との発言がでなければ問いかける。 | 「ワークシート」（配布） |
| 展開1<br>5分 | **１．「食物アレルギー」について調べてみよう**<br>「病気のしくみ」＞「免疫の病気」＞「食物アレルギー」に誘導<br>▶ワークシートに記入<br>・食物アレルギーについて知っていることを記入する<br>・資料からわかったことを記入する | 「食物アレルギーってどんな病気？」 |
| 展開2<br>15分 | **２．安心して調理実習をするための工夫や対応を考えよう**<br>【発問】食物アレルギーをもつ人が安心して調理実習に参加するには、どうしたらよいか。食物アレルギーをもつ人の立場になって考えさせたり、アレルギーをもつ生徒は自分の体験などを踏まえて、考えさせる。<br>個人の発表ののち、マンガを参考に考えさせる。<br>マンガ「もしも自分だったら」＞「食物アレルギー編」に誘導。<br>▶ワークシートに記入<br>・どんな対応や工夫があると食物アレルギーをもつ人が安心できるか。<br>・食物アレルギーをもつ児童も同様に考える。<br>※モニター表示の場合は、クラスで一緒に読み進める | 「みんなで笑顔になるために」<br>（食物アレルギー編） |
| 展開3<br>10分 | **３．グループで、「安心して調理実習をするために考えたこと」をもとに、自分たちの行動の目標を立てよう**<br>▶個人ワークシートをもとにグループ討論<br>・自分たちの行動の振り返り<br>・これからの目標（調理実習での具体的な工夫や改善点） | |
| まとめ<br>10分 | **４．行動目標を発表しよう**<br>▶グループまたは代表者が発表 | |